

京都志（こころざし）塾等について

あしなが育英会は、すべての人が貧富の差を問わず高等教育を受けることが実現するように、という立場をとり、過去約 50 年間、日本の遺児たちを 11 万人、高校や大学などに進学させてきました。この間、寄付は累計 1100 億円（9800 万ドル、8400 万ユーロ）を達成しました。しかし、あしなが育英会では日本の遺児だけがよければいいという立場ではなく、地球上の貧しい国をなくすために何をすべきか、すべての人が大学受験をする権利、それが基本的人権と思うのですが、それを守るために、2014 年からアフリカの遺児を世界の一流大学に進学させる「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想」事業を実施しています。

卒業すれば母国に帰り、母国の発展に貢献するニューリーダーを育成するのが、私たちのミッションです。

そうした中、あしなが育英会では、この度、京都市様、京都大学様のご理解のもと、京都市にアフリカ青少年のための教育支援機関「京都志塾」等を建設することを決定し、その建設候補地として、向島二の丸小学校跡地を活用させていただきたく、構想案を提出致します。

主な施設概要

京都志（こころざし）塾

志塾は、アフリカからそのまま世界の大学に留学するのではなく、1 年間全員がこの京都の塾に集まって、留学がより成果が上がるように、もう一度基礎的な準備や勉強をして、留学前の準備教育をするものです。

なおこの志塾には、アフリカ 49 か国代表 1 国 1 人、計 49 人（原則）と、日本のことを教えたり、国際的な友情を育むために、日本のあしなが育英会の遺児大学生 30 人ほど計 80 人が、一緒に学び寝食を共にする寄宿舎を包含します。

心（こころ）塾

心塾は、あしなが遺児学生が京都を中心に京阪神の大学へ通うための教育塾兼寄宿舎です。同様の施設が、既に神戸市と東京（日野市）にあります。学問に集中しながら 4 人部屋で仲間と過ごし、更に多様な文化や教養に触れることで、「暖かい心/広い視野/行動力/国際性」を身に付ける場とします。志塾のアフリカの若者と日常的に交流するとともに、餅つき大会など、地域住民の皆様との様々な交流も行いたいと考えています。

アフリカ博物館

居ながらにしてアフリカの人々の生活や文化諸々がわかる博物館をつくることにしています。京都大学の指導のもと、世界に類を見ない京大霊長類研究所が所蔵する文物の展示などを想定しています。

市民交流の場

地域住民の皆様とアフリカ各国の代表といえる志塾生、更には中国やインドの青少年等との交流の場となることを想定しています。